

② 重要な文化的景観マップ



人頭大以上の大きさの川原石を用いた石垣が続く独特の景観。「川まつり」や「鮎供養」など、鵜飼漁に関連が深い神明神社、人と川をつなぐ細い道、「陸門」と呼ばれる鉄製の門などがある。



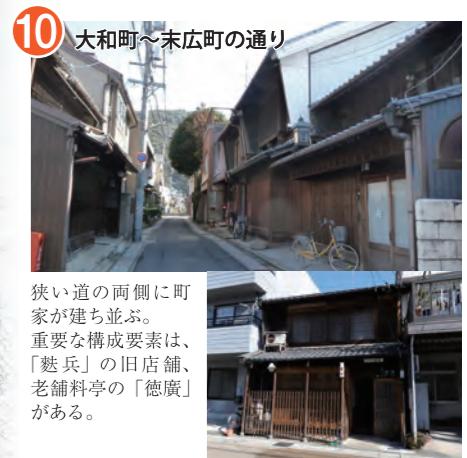
道三公によりつくられた金華山登城路に続く道。重要な構成要素は、料亭の「後楽荘」、斎藤家の菩提寺である常在寺、松尾芭蕉が逗留した妙照寺が建ち並び、かつての霧開気を残している。



道三公によりつくられた金華山登城路に続く道。重要な構成要素は、料亭の「後楽荘」、斎藤家の菩提寺である常在寺、松尾芭蕉が逗留した妙照寺が建ち並び、かつての霧開気を残している。



伊奈波神社に続き、春には枝垂桜が咲き誇る東西道路。通りの東部には、善光寺などの寺院が多く、「寺町」のような景観となっている。



「御鮎街道」の名は、鵜飼で捕れた鮎を塩漬けにし、笠松経由で江戸まで運んだことに由来する。旧紙問屋の「空穂屋」や旧松喜仏壇店(重要な構成要素)など、多くの店舗が建ち並ぶ。

- 重要な構成要素(建築物・道路)
- その他の見どころ

「長良川中流域における岐阜の文化的景観」全覧図(基)
奈良文化財研究所景観研究室 作成



越水の危険がある時には、最上部に畠を入れる構造になっている。